「世に勝つ信仰」　　2025 年 12 月 19 日

イエスがキリストであると信じる人は皆、神から生まれた者です。生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。神を愛し、その戒めを守るなら、それによって、私たちが神の子どもたちを愛していることが分かります。神の戒めを守ること、これが神を愛することだからです。その戒めは難しいものではありません。神から生まれた人は皆、世に勝つからです。世に勝つ勝利、それは私たちの信仰です。世に勝つ者とは誰か。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。（Ｉヨハネ５：1～5）

著者は、「イエスがキリストであると信じる人は皆、神から生まれた者です。生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します」と言う。イエスをキリストと告白する人は、神から生まれた者であり、生んでくださった神を愛する人は、神から生まれた者を愛する。キリスト教信仰は「イエス・キリスト・アーメン」に尽きる。この信仰は、神を愛し、その戒めを守るから、神の子どもたちを愛する。愛は世へと広がっていく。教会は、イエスをキリストと信じ、神から生まれた者同士として、互いに愛し合う群れである。神を愛するとは、神の戒めを守ることで、その戒めは難しいものではない。ヨハネ福音書 15 章 9～10 節で、主イエスは、「父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛した。私の愛にとどまりなさい。私が父の戒めを守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、私の戒めを守るなら、私の愛にとどまっていることになる」と語っておられる。愛するとは、愛する人の言うことを聞いて、守り、それを喜ぶことである。神を愛するということは主イエスの戒めを喜んで守ることなのである。

著者は、「神から生まれた人は皆、世に勝つからです。世に勝つ勝利、それは私たちの信仰です」と言う。そして、「世に勝つ者とは誰か。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか」と、イエスを神の子と信じる者は、全てに勝利すると高らかに宣言している。

パウロは、ローマ書 8 章 31b～33 節で下記のように書いている。「神が味方なら、誰が私たちに敵対できますか。私たちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものを私たちに賜らないことがあるでしょうか。誰が神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。」神が私たちの味方であるから、誰も私たちに敵対できない。御子イエスを惜しまず十字架の死に渡された神は、御子イエスと一緒に全てのものを賜る。神に選ばれた人を罪人として訴える者はいない。神は、主イエスの十字架によって罪を赦し、「義」としてくださった。神に「義」とされていることが、誰も敵対できない根拠である。パウロは、Ｉヨハネの著者が告げる「世に勝つ信仰」の内実を述べている。「義としてくださる」とは、あなたはあなたであって「よい」という「是認」である。自分自身を受け入れることができなくても、また、他人からダメな人間として否定されようとも、主イエスの十字架の死によって、神は私の生を無償で「義」としてくださる。私の生の根拠は神にあるということで、その者は、どんなに貧しく、弱くとも、何ものも恐れず、自分の人生を、自分らしく生きる者となる。世に勝つとは、他者を力で治めて、支配することではなく、主体的、自立的に立つ者になるということである。そして、神からの是認宣言を信じる者は、隣人をも、神に是認された者として、敬意をもって受け入れる。そこに、互いに愛し合う、主イエスの愛が満ち溢れる関係が構築されていく。主イエスを信じる者は、そのように世に勝つのである。